

未完発明の説明

特許出願書類に記述されている実施例は「当該の技術分野における通常の知識を有するものが反復実施して目的とする技術効果を上げることができる程度まで具体的・客観的なものとして構成されていなければならないものと解するのが相当であり、技術的内容が右の程度にまで構成されていないものは、発明として未完成のものであって、法二条一項にいう「発明」とはいえないものと言わなければならない。

- 1) 「目的達成のための手段の前部を欠くもの」
- 2) 「目的達成のための手段の一部を欠くもの」
- 3) 「目的達成のための手段は示されているが、自然法則から見て目的の達成が著しく疑わしいもの」
- 4) 着想・課題提出にとどまり、実現方法が分からないもの
- 5) 解決手段はしめされているものの、具体性がなかったり、その手段のみでは目的を達成することができなかつたりするもの
- 6) 実験結果などの具体的裏付けが必要にもかかわらず、それが無いもの

引用発明となるもの

- ・日本国内又は外国において公然知られた発明
 - ・日本国内又は外国において公然実施をされた発明
 - ・日本国内又は外国において頒布された刊行物に記載された発明
 - ・日本国内又は外国において電気通信回路を通じて公衆に利用可能となった発明
- ここで進歩性を否定する引例・引用例となる発明(引用発明)は、完成した発明でなくてはならない。

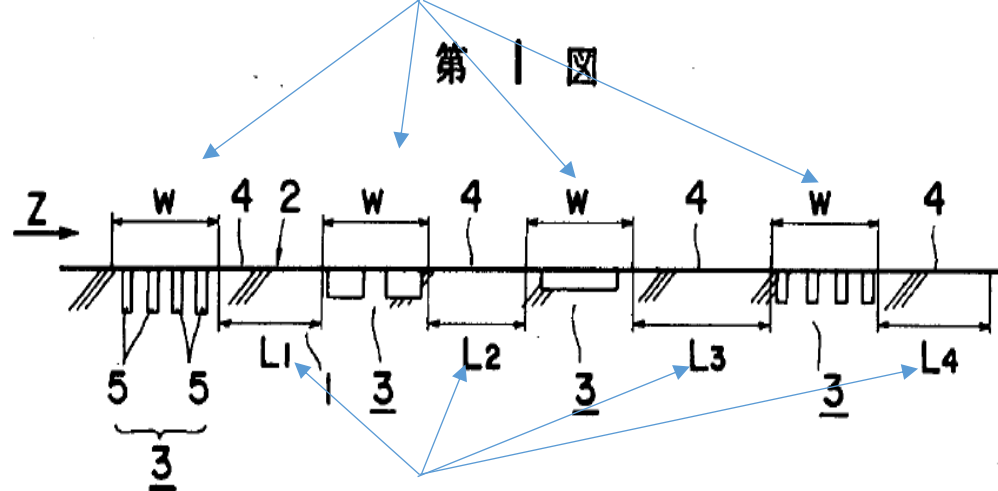
特許の実施

特許権者は、特別な例外を除いて、営利に限らず広く事業として特許発明の実施をする権利を専有し、他人を排して独占的に実施することができる

特許番号 特許第4708354号の査定過程において引用文献とされた対象特許技術

特許番号 引用日期番号(特開平2-008401号公報)

W=溝ゾーンにより{異なった周波数(振動)を発生}できるとしている



L=平ゾーンにより{所望のリズム(時間)を得れる}としている

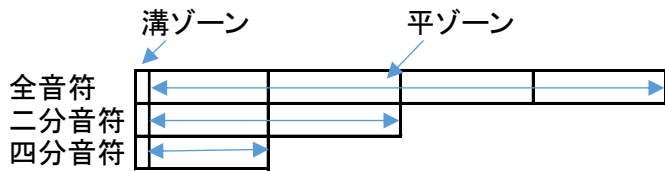
W=溝ゾーンによって所望の音を提供できるとしている。
実施例として

w	62 mm	時速	97000000 mm/h
車両速度	97 km/h	分速	1616667 mm/min
		秒速	26944.44 mm/s

w=62mmの所要時間内で

振動数		
(イ) 4回	2073Hz	これらの周波数が得れると している
(ロ) 2回	1036Hz	
(ハ) 1回	518Hz	

L1-4 リズム
Lを適宜調整することにより所望のリズム(テンポ)を提供することができる。とされている。

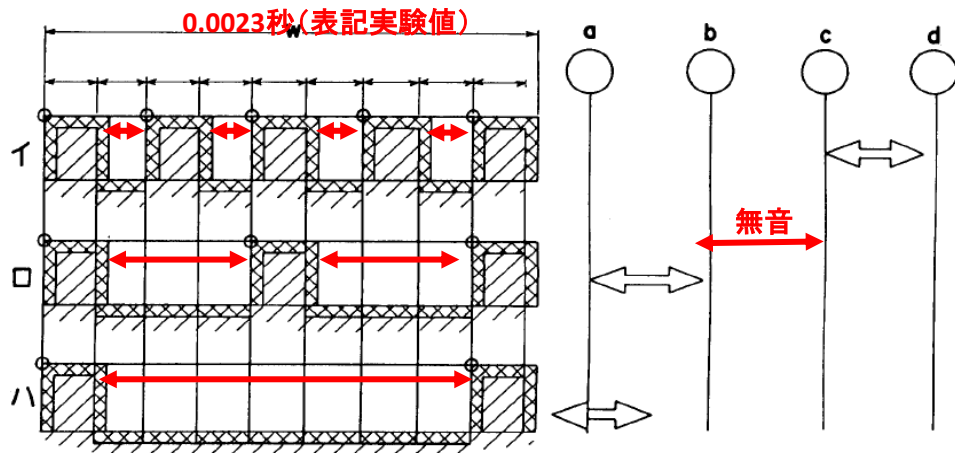


溝ゾーン 周波数の発生エリアとしている
 平ゾーン 無音状態によるリズム長を得ようとしている

				音の発生域		無音域			
				溝ゾーンの距離		平ゾーンの距離		単位	
音符 J	0.5	秒	所要時間	0.0023	0.4977	0.5000		s	
			所要距離	61.9992	13,410.2231	13,472.2222		mm	
♪	0.25	秒	所要時間	0.0023	0.2477	0.2500		s	
			所要距離	61.9992	6,674.1119	6,736.1111		mm	

第 2 図

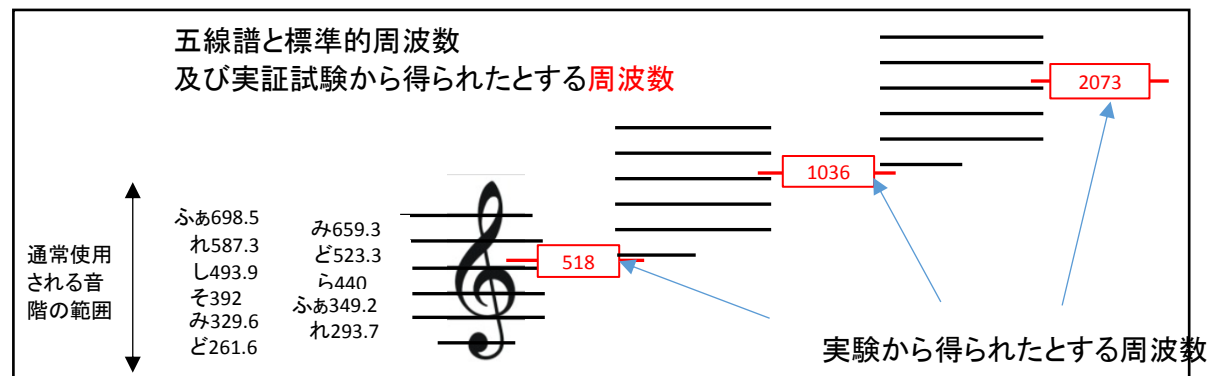
W=溝ゾーンによって所望の音(周波数)を提供できるとしている。



実施例

w	62 mm		
車両速度	97 km/h	97000000 mm/h	
		1616667 mm/min	
		26944.44 mm/s	
w所要時間		0.002301 s	
	振動数		
(イ)	4	回	2073 Hz
(ロ)	2	回	1036 Hz
(ハ)	1	回	518 Hz

0.0023秒間で上記の各周波数が得れるとされている。



周波数を下げるため溝数を少なくした場合、説明図から溝幅の増大により音量が大きくなりそのことから高い周波数では音量が小さく低い周波数域では音量が大きくなる。

本説明技術では仮に音が発生したとしても本説明図は倍音の構成になりメロディーを奏でるための説明にはならない。説明の中でbからc区間では周波数の発生がないとされているため音のなめらかな変化の連続性を得ることが難しい。0.0022秒間の音の発生では普通人の聴力により周波数を確認することが不可能であり、打撃音として聞こえる可能性が高い。(イ)、(ロ)の周波数は常識的音楽では使用されない周波数帯であり仮にあったとしても実際に可聴音として聞こえるのは本技術ではメロディーを成し得る音階の基本的変化(音階を作り上げる規則的周波数の変化)に関する記述がされていない。イ、ロ、ハの各々の溝を通過する時点で既定の周波数を確認できたとしているが、実験から記述されている結果を得ることは難しい。

第 3 図

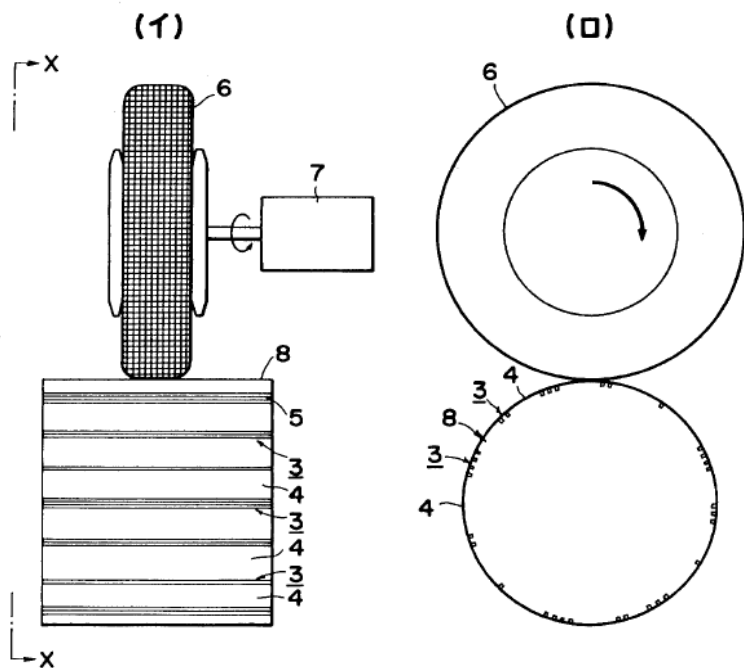


図3から読み取れる効果

ドラム8の回転数 1430 rpm
 23.83333 rps

1秒間に約24回転する回転体から発生する数種類の周波数を人の聴力により確認できたとされている。

本技術説明では下記の周波数が

2073 Hz
1036 Hz
518 Hz

聞こえるとされている。